

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

法人名	株式会社チャイルド・ピース
施設名	小鳩スマート保育所北馬込
施設所在地	東京都大田区北馬込2-1-1

1. 活動のテーマ

<テーマ>

にぎる

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

日々の遊びの中で、子どもは指先や手のひらを使いながら、玩具や身近な素材を繰り返し握り、感触や重さの違いを楽しむ姿が見られる。少人数で過ごす保育環境の中で、保育者が近くで見守りながら関わることで、子どもは安心して手や指を使い、素材に触れようとしている。「にぎる」という動きは、1・2歳児にとって、興味をもったものに自ら関わろうとする自然な姿であり、触る・確かめるといった経験を通して、気づきや試しを繰り返す様子が見られる。柔らかい、硬い、重い、軽い、冷たい、温かいなど、素材の違いを“握る”ことで感じ取る体験を日常の遊びの中で大切にしていきたい。室内での遊びや生活の中で、さまざまな素材に触れる機会を保障し、子どもの気づきや驚き、表情やしぐさに表れる思いを保育者が丁寧に受け止めながら関わっていけるよう、本テーマを設定した。

2. 活動スケジュール

水遊び…夏の時期に複数回実施(各クラス10回以上)

色水遊び…1回

洗濯遊び…1回

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

水遊びは複数回行う事を想定しているため、じょうろやバケツだけでなく水鉄砲なども準備して子どもの興味に合わせた遊びの展開が出来る環境設定を行った。他にも、小雨の日に水温を高くして水遊びをするなど、一味違う環境を設定するなどした。色水遊びでは、始めから色を付けるのではなく、食紅を使い一緒に色をつけて変化を楽しめるようにした。洗濯遊びでは、様々な厚さ・大きさのハンカチやシャツ等を用意して、自ら好きなものを選びながら遊びの展開ができる環境設定を行った。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

【②問いを考える】
色水遊びや水を使った活動の中で、「何色になるかな」「混ぜるとどうなるのかな」「絞るとどうなるのかな」と問いかけ、水や色の変化への関心を引き出した。

【③環境をデザインする】
色水を作る過程から取り組めるよう、透明容器や着色できる素材を用意した。また、洗濯遊びでは実際の物干しや様々な種類の布類を準備し、水を流す・混ぜる・絞る・干すといった一連の活動を試せる環境を整えた。

【④探究活動を実践し、記録する】
水に色を加えて混ぜたり、色水を移し替えたりしながら、色の変化や混ぜ方を確かめる活動を行った。また、布類を水に浸して絞ったり干したりする中で、水の流れや量の変化を体験した。活動の様子は写真で記録するとともに、子どもの発言や表情をメモし、振り返りに活用できるようにした。

【⑤振り返る・共有する】
カリキュラム会議やすくわく会議において活動内容を共有し、記録をもとに子どもの姿や支援の在り方について振り返った。また、職員間で気づきを共有し、次の活動に生かした。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)
水遊びでは、水面を叩いてしぶきを上げたり、バケツに水を汲む際に水の中に押し入れるようにして水が流れ込む感触を楽しんだりする姿が見られた。
色水遊びでは、色が変わる様子を不思議そうに見つめながら「やってみたい」と自ら関わり、好きな色に変えてペットボトルに入れ、ジュースに見立てて遊ぶ様子があった。
洗濯遊びでは、タオルを握ってねじり、水を絞ろうとする子もいた。洗濯ばさみで干そうとする中で難しさを感じながらも、保育者と一緒に手を添えて行うことで、干す動きを経験している様子だった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

水遊びでは、子どもたちが水に触れながら感じたことを、しぶきの動きや手の動き、言葉などで表そうとする姿が見られた。保育者はその一つひとつの表れに目を向け、子どもの感じていることに寄り添いながら関わることの大切さを改めて感じた。洗濯遊びでは、絞る・干すといった動きを保育者が示さなくても、用具を見て自ら遊びを始める様子が見られ、日常生活の中での経験が遊びに生かされていることに気付いた。また、水遊びを繰り返す中で、見立て遊びや友だちとの関わりが徐々に広がり、言葉を交わしたり模倣したりしながら一緒に遊ぶ姿が増えていった。子どもの興味や気付きに寄り添いながら関わることで、遊びが深まり関係性が広がっていくことを感じた。